

国際災害医療活動を実施するチームメンバーに求められること —国際緊急援助隊医療チームの活動から—

中 田 敬 司

東亜大学 医療工学部 国際緊急援助隊医療チーム 総合調整部会 研修検討委員会 ロジスティクス班長
e-mail: keiji@toua-u.ac.jp

1. はじめに

最初にお断りしておくが、ここではとりあえず私自身のことを棚にあげることをお許しいただきたい。私自身特別高い能力をもった人間ではなく、国際緊急援助隊医療チームのメンバーとして優れた仕事ができる人間でもないのである。せめて現在はそうしたスキルを身につけようと修行中の身であり、今回述べてゆく生意気な内容については是非寛大な心でご容赦いただければ幸いである。

2. 3つのスキル

さて国際緊急援助隊医療チーム（JDR医療チーム）メンバーに求められるものは様々あるがここでは次の3つのスキルの観点から述べていきたい。それはヒューマンスキル、次にテクニカルスキル、そしてコンセプトチュアルスキルである。

これらはそれぞれの立場によって求められるものの重要度は変化すると考えてよいがメンバーはこれらをバランスよく併せ持つことが大切である。それにも増して自分自身の成長課題をきちんと理解し常に謙虚な姿勢で学び続けることこそがメンバーに求められる最も重要な要素と捉えてならない。

3. JDR医療チームの仕事とは…

3.1. 要請から派遣まで

まずJDR医療チームがどんな環境下でどのような仕事をするのか。一言で言えば地震や津波・風

水害等自然災害が発生した海外の被災地で医療援助活動を行うのだ、とこういってしまえば簡単だがその活動は熾烈を極めるといっても過言ではない。

自然災害はいつ発生するのか、これは誰にもわからない。つまり登録されている我々メンバーはいつ派遣要請の呼び出しがかかるか判らないということだ。そしてその要請があったときにすぐにも飛び出していけるよう日頃から職場や家庭など自分自身の生活環境を整えておくことが求められるのは言うまでもない。例えば今回のスリランカ津波災害派遣のように災害発生の翌日早朝に成田空港に集合し2週間の医療活動に出発することになることもある。

すでにこれだけでも大変なことが解るだろう。出発前のきわめて短時間に派遣期間中の仕事のスケジュール調整、提出物等などがあれば締め切り延期願いやプライベートな約束のキャンセル、それに並行してスーツケースに2週間の旅支度を整える。しかし登録メンバーの中には残念ながら上



司に連絡が取れず了解を得られなかったり、仕事の都合やその調整が難しかったり、この最初のハードルを越えることができず派遣を断念せざるを得ないメンバーも実のところ多くいるのだ。

そしてなんとかこのハードルを越えた一部のメンバーが成田空港集合場所に赴き、知っている人もいれば初めて会う人もいるなかで、チームが結成され被災地ゆきの飛行機に乗り込み出国する。

3.2. 現地到着と活動そして帰国

到着地は被災地である。いずれの国も空港では入国した途端に言いようのない悲しみとあわただしさを感じさせる空気がある。文化や風習、そしてなにより言葉の違う異国……。そしてそこは災害によって多くの犠牲者を出している国なのだ。まずそうしたことへのしっかりとした認識が必要だ。そして私達には日本政府が派遣した医療チームとしての自覚が必要でもある。

さらに現地で通訳やドライバーと合流し、チームは強化され約40人のメンバー構成となる。

まず現地で行うことは、私達の活動する場所(サイト)の選定と生活場所の確保及びその環境整備である。

サイト選定は被災国政府や現地災害対策本部の要請などを受け、医療ニーズ・ロジスティクス環境・セキュリティ環境等を勘案して決定してゆく。

また生活場所についてもセキュリティはもちろん極力隊員メンバーの疲労が蓄積しないような宿舎の確保を目指して探してゆくが、被災地では贅沢も言っていられない。就寝場所・食事・トイレ・お風呂等どんなものであろうと、もしそろっていなくても平気だよ…といった気概も必要だ。場合によっては何日間かの野営も想定されており、私達はそうした訓練も研修の中で実施している。

さてサイトが決定し生活環境が整ったところではいよいよ本格的な医療活動の開始だ。サイトにテントを設営し医療器材を準備、そしてJDR医療チームの診療所が開設される。

1日に100人を超える患者さんがわれわれの医療テントに訪れるが、症状は様々である。

ここでのポイントはいかに限られた人員・医療資器材・医薬品を使ってより良い医療を提供できる



か…ということだ。つまり知恵と工夫が勝負ともいえる。私達はチームミーティングでの忌憚のない意見交換、柔軟な発想、アイデア・マネジメントなどでチームの力を向上させ、その能力の総和を上回る能力を発揮させてゆくよう努力している。

そして精一杯の活動を現地で繰り広げ、帰国の途につくのだ。

3.3. 帰国後…

さて帰国したことで私達の活動が終わったわけではない。活動レポートを作成することはもちろんであるが、今回の派遣を評価し今後のよりよき活動のための課題をあげ検討してゆくという重要な仕事が残っている。

そしてそうしたことは関連学会や研究会・報告会での発表、また登録隊員の研修会などで報告や検討が重ねられてゆく。

そして一步一步ではあるが国際緊急援助隊医療チームの質の向上に努めているのが現状である。

4. JDR医療チームメンバーに求められるもの

ここまで述べてくるとメンバーとしてどんなことが求められてくるかおおよその予想はつくかもしれない。先に述べたようにここではJDR医療チームの仕事を振り返りながら3つのスキルの観点でその求められるものについて述べてゆきたい。

4.1. ヒューマンスキルについて

これは最も重要なスキルといえる。ヒューマン



スキルとは抽象的だが人間力といえるかもしれない。そしてこれはけっしてすぐに身につくものではない。毎日の職場生活や家庭生活の中で意識して努力することが大切だ。

特にJDR医療チームの場合は大変ストレスフルな環境の中での活動を余儀なくされると共に、政府が派遣した医療チームとしてしっかりとした成果が求められる。

そしてそうした環境下で私達はどうなるのかというと、日頃の職場や生活の中で持っている自分自身の思考パターンや行動や態度が活動の中で顕在化してくるのである。その場だけ取り繕おうとしても過酷な現場はそれを浮き彫りにしてしまうのだ。だから日常が常に訓練であり研修と言ってもいい。

中でもとくに大切なのは、積極性・判断力・分析力・情報収集力・プレゼン能力・交渉力、そして親切さや協調性・謙虚さや明るさなどである。すこし視点を変えればチーム活動の中で自分の持っている個性や能力を存分に発揮することはもちろんであるが、チームのメンバーの一員として他のメンバー全員に受け入れられる、あえて一言で言えば人間として好かれるということだ。そのような存在になるよう努力をしてゆきたい。

また付け加えるならば、どこでも寝ることができる、なんでも食べることができる、どんな環境でもトイレができる、そして誰とでも仲良くできる…そんなたくましさもメンバーに求められるヒューマンスキルといってもいいだろう。

4.2. テクニカルスキル

これは専門的な知識や技術を意味する。医師・

看護師・薬剤師・臨床検査技師等さまざまな立場での専門的な知識や技術を持つことはもちろん、謙虚な姿勢で日々新しく変化する知識・技術の習得に励むことが大切である。加えてそうした専門的能力を現場で存分に発揮してもらうためのロジスティクスも専門的な知識・技術といえよう。

さらに最も大切なことは、そうした知識・技術の応用力といえる。医師、看護師等医療従事者にあっては限られた医療資器材・医薬品等をどう使ってゆくか、そしてロジスティクス担当者にあっては限られた時間・人員・活動資器材をどう有効に活用するかが求められる。あの薬がないから治療ができない…とか、あの道具がないからうまくゆかない…というような言い訳はもはや通用しない。つまりはそうした応用力も含めてテクニカルスキルと考えていいだろう。

4.3. コンセプチュアルスキル

概念化能力とも言われているが、ここではチームリーダーに必要な大局から判断してゆく戦略的思考能力といえる。全体をよく把握し、チームの持っている能力を理解した上でどのような運営がチーム目標達成に必要なかを検証する力と考えても良い。

日常では国内外でのJDR医療チームの課題、今後のあり方を検討することであり、また災害現場ではチーム全体を引っ張ってゆく重要なポイントでの意思決定を求められるのだ。

全体を大局的に見る力、情報を分析し評価する力、そしてより成果を作り出す方向に正しく意思決定する力が求められる。コンセプチュアルスキルはリーダーを目指す人が日常の職場の中で意識



しながら身につけてゆく高いレベルのスキルともいえる。

5. 終わりに

JDR医療チームメンバーは、災害が発生し被災国に派遣されると、その期間そして帰国後、テレビ出演や新聞取材・関連雑誌へのレポート掲載・講演会・報告会等一時的ではあるがかなり注目される。しかし日頃多くのメンバーは病院およびそれぞれの所属組織の中で自分自身の課題と向き合いながらコツコツと職務に励んでいるのである。

またいざ派遣となったときに、職場の仲間から、そして家族から快く送り出してもらうため、その環境を懸命に構築しているのだ。

そしてわれわれメンバーは有事の際に留守を引き受けてくれる職場の仲間や家族への心遣いを決して忘れてはならない。なぜならば国際緊急援助隊医療チームの基本理念は「人間愛」なのだから…。

さていろいろと述べてきたが今回のレポートは自分自身への戒めのつもりで文を綴った。ここまで述べたことは実のところ私自身が目指してゆくべきこととして真摯に受け止めている。